

バラまつりにおける市街地活性化イベント事業

取組に至る背景・事業の目的

1994年からはじまった中野市「バラまつり」。毎年8万人を超える観光客で賑わっており、中野市を代表するイベントとなっている。しかしながら、一本木公園に来場した観光客が市街地に立ち寄ることが少ないことから、一本木公園に来場した観光客を市中心市街地に誘客し、バラ公園と市街地が一体となった広がりのあるイベントにすることで、バラのまちづくりを推進する。

事業内容

- 平成22年に中野市の青年3団体（社）中野青年会議所、中野商工会議所青年部、JA中野青年部）が地域振興のためバラまつりにおける市街地活性化イベントを開催しようと「なかのローズタウン」を設立した。3団体が一致団結し協力・連携し、それぞれの得意分野やこれまで事業等で培ったノウハウを活かしイベントを実施。
- 市内で栽培されているバラの花びら（1万輪）を路上に敷き詰め、イベントのシンボルとなる花絵を作成。
- 子どもが楽しめるバラに関連した講座の開催、遊具の設置
- 中野市近隣の各種団体、店舗によるブースの出店
- 同時開催
九畷市、あんと市、THE☆若者まちなか音楽会、西本市



【賑わう「なかのローズタウン」】

事業効果

- なかのバラまつりの来場者を市街地へ誘客し、2日間で対前年比20%増の8,200人の来場者あり、当該地域の文化や産業のPR及び市街地の活性化に繋がった。
- 会場の入り口に設置したウェルカムローズは、誘客につながるとともに中野のバラのアピールになった。
- バラ公園と市街地が一体となり、新たなまちづくり運動が展開できた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 平成22年に設立された「なかのローズタウン実行委員会」。異なる組織が協力して地域課題に取組んだ2年目で、一定の効果と手ごたえを得た。
- 今後もより一層、中野市近隣の文化や産業をアピールできる事業内容を検討し、ボランティアなどの協力により住民参加型のイベントとしていきたい。

【選定のポイント】

バラまつりに来た観光客を市街地に誘引する取組みとして、新たな取り組みとしてバラの花びらを使った花絵の作成、農産物等の販売、子ども遊具の設置などを行った。市街地を歩行者天国にして、様々なイベントを開催することで、前年度の来場者を20%程度上回る8,200人の来場者があり、来年度以降も今回の取組みが継続していくよう期待したい。

団体名	なかのローズタウン実行委員会 (中野市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0269-26-3412	事業費	2,529,954円
ホームページ、メールアドレス		支援金額	2,045,000円